



®環境省
エコアクション21
認証番号 0007842

環境経営レポート

R4

共栄環境開発株式会社

発行日：令和5年4月20日

運用期間：令和4年1月～令和4年12月

目次

環境経営方針	3
組織の概要	4
■ 会社概要	4
■ 所在地	4
■ 会社組織図	4
■ エコアクション21実施体制	5
■ 会社沿革	5
事業の概要	6
■ 認証登録の対象組織、活動	6
■ 関連事業所及び活動	6
■ 料 金	7
■ 産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表	7
■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表	8
■ 産業廃棄物処分業許可 取得状況表	8
■ 中間処理施設 概要	9
■ 中間処理の概要	9
■ その他の許可 取得状況表	10
■ 保有車両の種類と台数	11
環境経営目標と評価 全体	12
環境経営目標と評価 本社	14
環境経営目標と評価 大牟田支店	16
環境経営目標と評価 熊本支店	18
環境経営目標と評価 久留米支店	20
環境経営目標と評価 (化学物質の管理表)	22
環境経営目標と評価 (目標設定の考え方)	23
環境経営計画の取組結果とその評価 本社	24
環境経営計画の取組結果とその評価 大牟田支店	25
環境経営計画の取組結果とその評価 熊本支店	26
環境経営計画の取組結果とその評価 久留米支店	27
当社の環境経営目標とSDGsの関わり	28
実施した取組内容、次年度の目標及び計画	29
環境負荷実績 全体	30
環境負荷実績 本社	32
環境負荷実績 大牟田支店	34
環境負荷実績 熊本支店	36
環境負荷実績 久留米支店	38
環境関連法規等の遵守状況の確認及び	40
代表者による全体評価と見直しの結果	42

環境経営方針

環境理念

私達は、事業活動において、省エネルギー及びリサイクルを推進し、地域の環境保全に寄与する企業を目指します。

行動指針

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減する為、二酸化炭素の排出量、エネルギーの使用量、水の使用量、廃棄物の排出量、輸送における燃料使用量の削減に努めます。
2. 特に収集運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取り組みます。
3. 受託した産業廃棄物の運搬先は、再資源化されている処分業者を優先的に選定し、リサイクル率の向上を図ります。
4. 作業機材や作業工程に、環境負荷の低減に資する工法や機材を選定し取り入れるよう努めます。
5. 省エネ、省資源に対応したグリーン製品を優先的に購入します。
6. 積極的に社会貢献活動（環境保全活動）に取り組み、地域環境保全に寄与します。
7. 事業に関連した環境に関する法規等を遵守します。
8. 環境経営方針は定期的に見直し、全社員に周知徹底、意識高揚をはかり、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。また、環境経営レポートは一般に開示します。

制定日 平成 23 年 4 月 1 日

改訂日 令和 3 年 10 月 22 日

共栄環境開発株式会社
代表取締役 久留須 智子

組織の概要

■ 会社概要

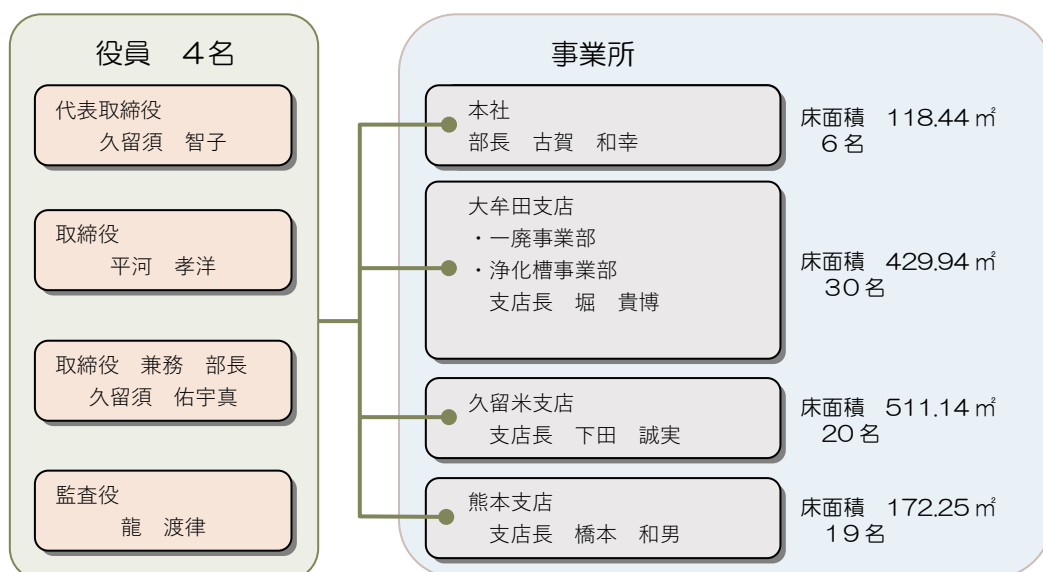
社 号 / 共栄環境開発株式会社
代 表 者 / 代表取締役 久留須 智子
設 立 / 昭和 38 年 2 月 7 日
資 本 金 / 払込 4,100 万円
売 上 高 / 1,117 百万円 (令和 4 年度)
事業年度 / 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日
ホームページ URL / <https://www.kyoei-ed.com>
メールアドレス / info@kyoei-ed.com

■ 所在地

本 社 (〒836-0057) 福岡県大牟田市汐屋町 5 番地の 15
TEL : 0944-52-6732 / FAX : 0944-54-1525
大牟田支店 (〒836-0073) 福岡県大牟田市船津町 326-2
TEL : 0944-55-1231 / FAX : 0944-56-9532
久留米支店 (〒839-0806) 福岡県久留米市東合川干出町 2-1
TEL : 0942-45-3311 / FAX : 0942-45-3317
熊 本 支 店 (〒861-4101) 熊本県熊本市南区近見 8 丁目 8-45
TEL : 096-358-5611 / FAX : 096-358-5118

■ 会社組織図

総員 79 名 総床面積 1231.77 m²



組織の概要

■ エコアクション21実施体制

環境管理責任者： 部長 古賀 和幸 （連絡先：0944-52-6732）
実施担当者： 別所 孝行 （連絡先： 同上 ）
EA21委員会： 取締役 平河 孝洋
監査役 龍 渡律
支店長 堀 貴博
支店長 下田 誠実
支店長 橋本 和男
部長 久留須 佑宇真
EA21事務局： 部長 古賀 和幸
別所 孝行

■ 会社沿革

昭和29年 9月 創業
昭和38年 2月 共栄衛生有限会社 設立
昭和47年 3月 社名を共栄環境開発有限会社に変更
昭和55年 2月 本社ビル完成に伴い現住所に移転
昭和57年 9月 玉名営業所開設
昭和58年 7月 筑後環境分析センターを寄付
昭和60年 5月 資本金を1000万円に増資
昭和60年12月 筑後環境分析センターを寄付（（財）有明環境整備公社設立）
昭和61年 4月 熊本営業所開設
平成 3年 5月 社名を共栄環境開発株式会社に変更
平成 3年 7月 熊本支店を近見に新設
平成 8年 8月 久留米支店を梅満町に新設
平成10年11月 久留米支店を東合川干出町に新築移転
平成11年 4月 大牟田支店を船津町に新設移転
平成20年11月 資本金2000万円に増資
平成24年 2月 資本金4100万円に増資

事業の概要

■ 認証登録の対象組織、活動

認証・登録組織名：共栄環境開発株式会社（福岡県大牟田市汐屋町5番地の15）

認証・登録番号：0007842

認証・登録日/2011年12月20日

更新・登録日/2021年12月20日

有効期限/2023年12月19日

（事業内容）

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業（中間処理）、浄化槽維持管理、し尿収集運搬の委託業務、建設業（土木、管、浚渫）、伏び工事（FCR工法）

■ 関連事業所及び活動

- 本社
総務、経理、経営企画
- 大牟田支店
浄化槽維持管理、排水処理施設の技術管理、関連機器の修理、管工事及び排水設備工事、し尿収集運搬業務（大牟田市からの委託業務）
- 久留米支店
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修、FCR工法による伏びの維持管理業務（鉄道事業室）
- 熊本支店
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修
- 船津車庫
業務車両の駐車場のみ

エコアクション21の取り組み範囲は、上記の全組織・全活動を対象とします。

※ただし建設業においては、長期の建設現場をもたない業務が主であり、事務所、車両等も廃棄物処理業と共有していて、環境への負荷を分けて算出することが困難であるため、環境目標、環境活動等は全て廃棄物処理業と合わせて考えるものとし、あきらかに住み分けができる浚渫のみ環境負荷の記録項目に追加しています。

事業の概要

■ 料 金

業務の内容に応じてお見積りいたします。

■ 産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表

官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・陶磁器くず・及びコンクリートくず	鉱さい	がれき類	動物のふん尿	ばいじん	石綿含有産業廃棄物を含む
	許可期限																		
優良 → 福岡県 04000000741	R4.2.2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R11.2.1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 熊本県 04305000741	R3.9.1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.8.31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 佐賀県 04101000741	R3.4.14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.4.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 長崎県 04200000741	R2.11.27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R9.11.26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 大分県 04407000741	R3.2.28	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.2.27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 宮崎県 04504000741	H29.1.26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R6.1.25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 鹿児島県 04608000741	H28.10.25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R5.10.24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 山口県 03500000741	R3.6.16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R10.6.15	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 広島県 03400000741	R4.2.6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R11.2.5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 岡山県 03300000741	R4.12.14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R11.12.13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※平成 24 年 4 月 1 日の廃掃法の改定により、保有していた市の許可は全て、県の許可に統合されています。

※積替え保管施設はありません。

※左に「優良」の文字を表示している箇所は、「優良産業廃棄物処理業者認定」を取得しているという意味です。これは、次ページ（8p）も同様です。

事業の概要

■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表

	官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	鉱さい	ばいじん	廃石綿等
		許可期限								
優良	福岡県 04050000741	R3.9.21	●	●	●	●	●	●	●	●
		R10.9.20								
優良	熊本県 04355000741	R3.5.7	●	●	●	●	●	●	●	●
		R10.5.6								
優良	佐賀県 04151000741	H30.1.11	●	●	●	●	●	●	●	●
		R7.1.10								
優良	長崎県 04250000741	H28.12.28	●	●	●	●	●	●	●	●
		R5.12.27								
優良	大分県 04457000741	H28.10.26	●	●	●	●	●	●	●	●
		R5.10.25								
優良	宮崎県 04554000741	R4.9.15	●	●	●	●	●	●	●	●
		R11.9.14								
優良	鹿児島県 04652000741	R4.4.30	●	●	●	●	●	●	●	●
		R11.4.29								
優良	山口県 03550000741	R3.12.16	●	●	●	●	●	●	●	●
		R10.12.15								
優良	広島県 03450000741	R4.2.6	●	●	●	●	●	●	●	●
		R11.2.5								
優良	岡山県 03350000741	R4.12.14	●	●	●	●	●	●	●	●
		R11.12.13								

■ 産業廃棄物処分業許可 取得状況表

	官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	汚泥 (有機性)	
		許可期限		
優良	福岡県 04020000741	R4.2.2	●	移動式の汚泥脱水車を排出事業所内に搬入し、汚泥脱水中間処理を行います。 ※詳細→9P
		R11.2.1		
優良	久留米市 11220000741	R4.2.2	●	
		R11.2.1		
優良	熊本県 04325000741	R3.10.13	●	
		R10.8.31		
優良	熊本市 08123000741	H29.4.13	●	
		R6.4.12		
優良	佐賀県 04121000741	H31.4.14	●	
		R8.4.13		

事業の概要

■ 中間処理施設 概要

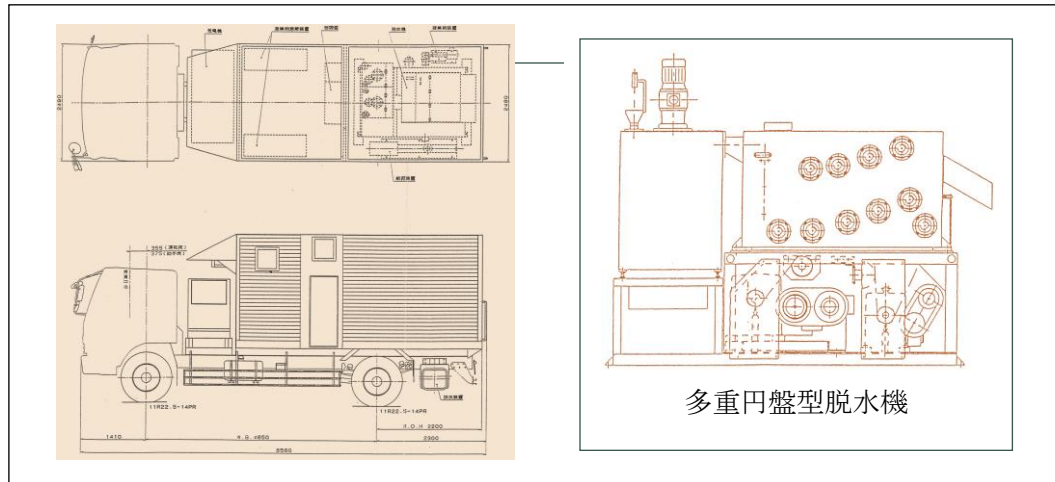
施設の種類：移動式汚泥脱水車

処理方法：多重円盤型脱水方式（株ヘリオス社製脱水機 SP-1000）

処理する廃棄物：汚泥（有機性のものに限る）

処理能力：最大 9m³/時

※上記の処理能力は計算上の数字です、実際は汚泥の性状等によって変動します。

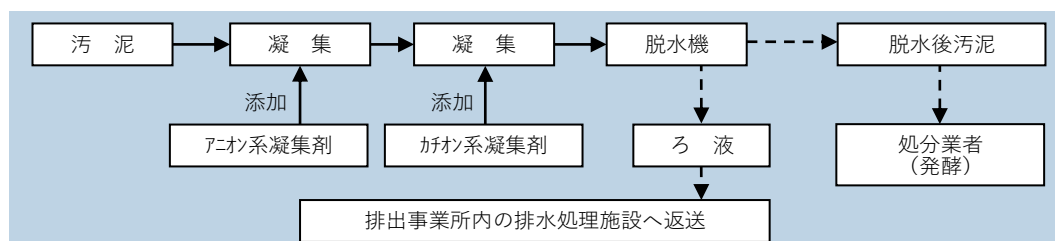


※環境汚染防止対策

脱水作業により発生した排水は一度脱水車の水受けタンクに受け、排出事業所内の水処理施設に返すため、水質汚染は発生しません。施設の稼働には防音型の発電機を用い、脱水機はステンレス板で被い囲む構造としているため、振動・騒音・悪臭の発生も軽微です。

■ 中間処理の概要

移動式の汚泥脱水車のため、排出事業所内へ施設を搬入し、排出事業所内の汚泥貯留槽等よりポンプで直接汚泥を脱水車に引き込み、脱水処理を行います。脱水後の汚泥は密閉型のフタ付コンテナに収納し、脱着装置付コンテナ専用車で発酵処理施設へ搬入し処分します。



事業の概要

■ その他の許可 取得状況表

● 一般廃棄物収集運搬

大牟田市	委託	事業範囲	し尿収集運搬
	許可	事業範囲	浄化槽汚泥、ディスポーザー排水処理汚泥
		許可番号	第 2 号
		許可期限	R4.4.1～R6.3.31
久留米市	許可	事業範囲	燃やせるごみ、空きカン・空きビン及びペットボトル
		許可番号	第 1020 号
		許可期限	R4.4.1～R6.3.31
川棚町	限定許可	事業範囲	し尿及び浄化槽汚泥
		許可番号	第 71 号
		許可期限	R3.5.2～R5.5.1
		限定条件	ハラサンギョウ(株)への搬入に限る。
熊本市	許可	事業範囲	ごみ（事業ごみと臨時の家庭ごみ）
		許可番号	第 21R-171 号
		許可期限	R5.4.1～R7.3.31

● 浄化槽保守点検・清掃

大牟田市	許可	事業範囲	浄化槽清掃業務
		許可番号	第 2 号
		許可期限	R4.6.1～R5.5.31
福岡県	登録	事業範囲	浄化槽保守点検業務
		登録番号	第 2 号
		登録期限	R4.4.1～R7.3.31

● 建設工事

国交大臣	許可	事業範囲	建設業許可（土木、管、しゅんせつ）
		許可番号	（般 - 4）第 16063 号
		許可期限	R5.2.16～R10.2.15
大牟田市	指定	事業範囲	排水設備工事
		指定番号	17
		指定期限	R3.7.10～R8.7.9

事業の概要

■ 保有車両の種類と台数

種類	台数
特殊強力吸引車	12
強力吸引車	4
脱着装置付コンテナ専用車	6
クレーン付平ボディー車	2
塵芥車	2
ダンプ車	3
Wキャブダンプ車	2
トラック	4
超高压洗浄車	1
高压洗浄車	6
給水車	5
下水道管渠内調査用 TV カメラ搭載車	2
移動式汚泥脱水車	1
バキューム車（浄化槽）	7
バキューム車（一廃）	3
ホロ付トラック	1
バン（浄化槽管理用等）	10
ワゴン車（浄化槽管理用等）	3
営業車	17
軽自動車	4
路面清掃車	2
散水車	1
原付バイク	1
合計	99

環境経営目標と評価 全体

■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	618125.3	-0.5%	615034.7	-1.0%	611944.0	-1.5%	608853.4
	▶ 電気使用量の削減	kWh	96026.0	-0.5%	95545.9	-1.0%	95065.7	-1.5%	94585.6
	▶ ガス使用量の維持	m ³	154.0	±0%	154.0	±0%	154.0	—	183.6
	▶ 燃料使用量の削減	L	226892.8	-0.5%	225758.3	-1.0%	224623.8	-1.5%	223489.4
②	廃棄物排出量の削減	kg	8051.1	-0.5%	8010.8	-1.0%	7970.5	-1.5%	7930.3
③	水使用量の削減	m ³	760.9	-0.5%	757.1	-1.0%	753.3	—	1069.0
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	591	±0人	591	±0人	591	±0人	591
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度実績		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	618125.3	-1.0%	611944.0	630176.5	97.0%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	96026.0	-1.0%	95065.7	96987.0	98.0%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	154.0	±0%	154.0	188.7	77.5%
	▶ 燃料使用量の削減	L	226892.8	-1.0%	224623.8	230792.5	97.3%
②	廃棄物排出量の削減	kg	8051.1	-1.0%	7970.5	8073.2	98.7%
③	水使用量の削減	m ³	760.9	-1.0%	753.3	1217.5	38.4%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	591	±0人	591	532	90.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価 全体

■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R4年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	618125.3	-1.5%	608853.4	588782.0	103.3%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	96026.0	-1.5%	94585.6	95513.0	99.0%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	154.0	—	183.6	87.7	152.2%
	▶ 燃料使用量の削減	L	226892.77	-1.5%	223489.4	215382.3	103.6%
②	廃棄物排出量の削減	kg	8051.06	-1.5%	7930.3	7446.4	106.1%
③	水使用量の削減	m ³	760.9	—	1069.0	1208.0	87.0%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	実施している	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	591	±0 人	591	546	92.4%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂ 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。内訳項目毎にみると、三つの内、二つで目標を達成する事ができている。業務量による変動が大きい項目だが、目標を達成できたのは、削減活動の効果が出ている結果だと感じる。目標を達成できなかった電気使用量の削減についても、達成率が99%と高い数値となっていて、大きな問題はないと考える。
	▶ 電気使用量の削減	△	目標の達成はできなかったものの、達成率で見ると99%と高い数値になった。なお、前年度との比較では使用量が減少している。現場社員の室内作業(報告書作成など)が多い場合には事務所の電気使用量が多くなるため、業務状況による影響が大きい項目だが、継続して実施されている削減活動も一定の効果が出ている。
	▶ ガス使用量の維持	○	目標を達成する事ができた。ガスの使用量は、シャワーの使用頻度によって大きく影響を受ける項目になっている。現場作業で酷く汚れてしまった際など、作業員の判断でシャワーを使用している。使用頻度は現場環境に依存する為、年度毎の変化が大きい項目になっている。
	▶ 燃料使用量の削減	○	目標を達成する事ができた。燃料使用量は業務量と比例する関係にあり、「売り上げが減少したから燃料使用量も減少した」という状態になればこれは望ましくない。しかし今年度に関しては、売上高もしっかり確保されている中で目標を達成する事ができている。良い結果である。
②	廃棄物排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。年度によって変動する項目ではあるが、今年度は全体的に廃棄物があまり出ない年となった。
③	水使用量の削減	△	大牟田支店と熊本支店で使用量が増加した事が影響して、目標を達成する事ができなかった。原因の調査を実施したが、決定的な原因を究明する事はできなかった。ただ、水使用量増加に影響した可能性が高いと思われる事柄は確認できている。支店内の会議で周知し、今後は水の使用量増加についてさらに注意しつつ、活動に取り組む事を呼び掛けた。
④	グリーン購入の推進	○	優先的にグリーン製品の購入が行われている。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標の達成には至らなかった。業務との兼ね合いもあり、近隣でのゴミ拾い清掃活動への参加人数が伸びなかった。今も続いている新型コロナウイルスの影響で、参加できるような環境イベントを見つける事ができていない状況も影響している。ただ、環境イベントへの参加は休日対応になる(業務指示として強制することはできない)ため、今後は人数目標とは別にした形で目標を設定した方がよいと感じている。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画に準じて実施されている。

環境経営目標と評価 本社

■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	21784.3	-0.5%	21675.4	-1.0%	21566.5	-1.5%	21457.6
	▶ 電気使用量の削減	kWh	35019.0	-0.5%	34843.9	-1.0%	34668.8	-1.5%	34493.7
	▶ ガス使用量の維持	m ³	1.0	±0%	1.0	±0%	1.0	±0%	1.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	4148.1	-0.5%	4127.3	-1.0%	4106.6	-1.5%	4085.9
②	廃棄物排出量の削減	kg	968.8	-0.5%	964.0	-1.0%	959.1	-1.5%	954.3
③	水使用量の削減	m ³	20.9	-0.5%	20.8	-1.0%	20.7	—	52.5
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	55	±0人	55	±0人	55	±0人	55
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集 運搬・処分における環境配慮	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑧	自らが施工する工事に関する 環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	21784.3	-1.0%	21566.5	18593.2	113.8%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	35019.0	-1.0%	34668.8	33020.0	104.8%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	1.0	±0%	1.0	0.0	200.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	4148.1	-1.0%	4106.6	3073.4	125.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	968.8	-1.0%	959.1	894.9	106.7%
③	水使用量の削減	m ³	20.9	-1.0%	20.7	52.5	-53.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	55	±0人	55	51	92.7%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運 搬・処分における環境配慮	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する 環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価 本社

■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R4年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	21784.3	-1.5%	21457.6	16007.4	125.4%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	35019.0	-1.5%	34493.7	29542.0	114.4%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	1.0	±0%	1.0	7.0	-500.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	4148.1	-1.5%	4085.9	2472.5	139.5%
②	廃棄物排出量の削減	kg	968.8	-1.5%	954.3	815.5	114.5%
③	水使用量の削減	m ³	20.9	—	52.5	42.0	120.0%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	55	±0人	55	51	92.7%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。内訳の三項目を見ると、ガス使用量の目標は達成できていないが、それ以外の燃料使用量の削減、電気使用量の削減では目標を達成できている。本社は、ガス湯沸かし器でしかガスを使用していない。その為、ガス使用量がそもそもほとんどなく、多少使用量が増えたところで、二酸化炭素排出量として集計した場合の影響が限りなく小さい。よって、他の2項目で削減ができていれば、二酸化炭素排出量の削減目標は達成できる。
	▶ 電気使用量の削減	○	目標を達成する事ができた。継続されている節電活動の効果が出ている。なお、電気温水器をガス湯沸かし器へ切り替えた為、その分の電気使用量はガス使用量の方に転嫁されている。
	▶ ガス使用量の維持	×	今まで使用していた電気温水器が故障した事で、ガス湯沸かし器に切り替えた。今まで使用していなかったガスを使用するようになった事により使用量が増加している。基本的な使用量の増加となるので、来年度は、現状に合わせた目標値を設定する。
	▶ 燃料使用量の削減	○	新型コロナウイルスの影響が継続しており、社外に出る機会が大幅に減少している。本社は現場業務を持っていないため、単純に外出の機会が減ったことで燃料使用量が減少している。ただ、エコドライブなどもきちんと継続しているため、その活動も燃料使用量削減に貢献できている。
②	廃棄物排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。来年度も活動を継続し、目標の達成を目指す。
③	水使用量の削減	○	目標を達成する事ができた。一時的に使用量が多くなってしまった月があるが、ビルの貯水槽清掃で水を使用した為であり、はっきりとした理由があるので問題はない。
④	グリーン購入の推進	○	事務用品を購入する際には、優先してグリーン製品を購入している。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標を達成する事ができなかった。会社近隣のゴミ拾い清掃活動は欠かすことなく行われているが、新型コロナウイルスの影響もあり、環境イベントへの参加が少なかった。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない部署

環境経営目標と評価 大牟田支店

■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	128017.3	-0.5%	127377.2	-1.0%	126737.1	-1.5%	126097.0
	▶ 電気使用量の削減	kWh	22870.0	-0.5%	22755.7	-1.0%	22641.3	-1.5%	22527.0
	▶ ガス使用量の維持	m ³	0.0	±0%	0.0	±0%	0.0	±0%	0.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	47082.8	-0.5%	46847.4	-1.0%	46612.0	-1.5%	46376.6
②	廃棄物排出量の削減	kg	5659.0	-0.5%	5630.7	-1.0%	5602.4	-1.5%	5574.2
③	水使用量の削減	m ³	205.0	-0.5%	204.0	-1.0%	203.0	-1.5%	201.9
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	360	±0人	360	±0人	360	±0人	360
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO₂ 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	128017.3	-1.0%	126737.1	136689.8	92.1%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	22870.0	-1.0%	22641.3	22194.0	102.0%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	0.0	±0%	0.0	0.0	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	47082.8	-1.0%	46612.0	50409.1	91.9%
②	廃棄物排出量の削減	kg	5659.0	-1.0%	5602.4	5532.6	101.2%
③	水使用量の削減	m ³	205.0	-1.0%	203.0	247.0	78.3%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	360	±0人	360	337	93.6%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂ 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価 大牟田支店

■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R4年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	128017.3	-1.5%	126097.0	133879.9	93.8%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	22870.0	-1.5%	22527.0	23898.0	93.9%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	0.0	±0%	0.0	0.0	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	47082.8	-1.5%	46376.6	49102.3	94.1%
②	廃棄物排出量の削減	kg	5659.0	-1.5%	5574.2	5571.2	100.1%
③	水使用量の削減	m ³	205.0	-1.5%	201.9	267.0	67.8%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	360	±0人	360	336	93.3%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	△	目標を達成できなかった。内容を個別に見ても、電気使用量の削減、燃料使用量の削減、どちらの項目も目標を達成できていない。ただ、前年度よりは二酸化炭素排出量が減少している。このことから、目標こそ達成できていないが、削減活動の効果はきちんと表れていると推測できる。
	▶ 電気使用量の削減	△	目標を達成する事ができなかった。8月の使用量が特になくなっていて、原因は空調機の動作不良によるものと考えられる。新しい空調機への取替えはすでに完了していて、それ以降は数値も安定している。
	▶ ガス使用量の維持	○	年間を通してガスの使用は無かった。
	▶ 燃料使用量の削減	△	活動は継続して実施されているが、目標の達成には至らなかった。ただ、前年度よりは使用量が減少している。今年度の売上高は前年度より多く、当然、業務量も多かった。その中で燃料の使用量が減少しているため、活動の成果が出ていると感じる。
②	廃棄物排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。削減活動が継続して実施されていて効果が出ている。
③	水使用量の削減	×	目標を達成する事ができなかった。漏水などは確認されていないが、使用量が多くなっている。調査したが、はっきりとした原因は分からなかった。ただ、原因となった可能性が高い事として、洗濯機の使用頻度の増加、洗車を行う回数の増加が挙げられた。当社の業務としては、「社員の安全衛生」と、「設備をきれいに保つこと」は何よりも重視すべきことである。よって、明らかに過剰(異常)でない限り、その制限をすることは考えていない。
④	グリーン購入の推進	○	優先してグリーン製品の購入を実施している。
⑤	グリーン活動への参加	△	会社近隣でのゴミ拾い清掃活動への参加人数が伸び悩み、目標を達成する事ができなかった。活動は継続されているが、業務の合間に実施されている為、参加人数が少なくなる時もある。新型コロナウイルス流行の影響で、大規模な環境イベントが開催されていない事も影響している。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。

環境経営目標と評価 熊本支店

■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	180983.4	-0.5%	180078.5	-1.0%	179173.6	-1.5%	178268.6
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17553.0	-0.5%	17465.2	-1.0%	17377.5	-1.5%	17289.7
	▶ ガス使用量の維持	m ³	149.8	±0%	149.8	±0%	149.8	±0%	149.8
	▶ 燃料使用量の削減	L	67375.9	-0.5%	67039.0	-1.0%	66702.1	-1.5%	66365.3
②	廃棄物排出量の削減	kg	873.1	-0.5%	868.7	-1.0%	864.3	-1.5%	860.0
③	水使用量の削減	m ³	359.0	-0.5%	357.2	-1.0%	355.4	-1.5%	353.6
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0人	66	±0人	66	±0人	66
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO₂ 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	180983.4	-1.0%	179173.6	202575.1	86.9%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17553.0	-1.0%	17377.5	19225.0	89.4%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	149.8	±0%	149.8	155.9	95.9%
	▶ 燃料使用量の削減	L	67375.9	-1.0%	66702.1	75135.0	87.4%
②	廃棄物排出量の削減	kg	873.06	-1.0%	864.3	940.0	91.2%
③	水使用量の削減	m ³	359.0	-1.0%	355.4	457.0	71.4%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0人	66	66	100.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂ 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価 熊本支店

■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R4年度	R4年度	
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	180983.4	-1.5%	178268.6	177510.3	100.4%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17553.0	-1.5%	17289.7	19667.0	86.3%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	149.8	±0%	149.8	52.7	164.8%
	▶ 燃料使用量の削減	L	67375.9	-1.5%	66365.3	65848.5	100.8%
②	廃棄物排出量の削減	kg	873.1	-1.5%	860.0	426.6	150.4%
③	水使用量の削減	m ³	359.0	-1.5%	353.6	505.0	57.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	66	±0人	66	66	100.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。内訳項目では、電気使用量の削減は目標を達成できなかったものの、燃料使用量の削減とガス使用量の維持の項目では目標を達成できた。二つの項目で目標を達成できた事が、二酸化炭素排出量の削減目標を達成する事に繋がった。
	▶ 電気使用量の削減	△	目標を達成する事ができなかった。事務員の入れ替わりがあり、そのフォローをする為に、上司や営業社員の事務所内での作業時間が増加した事が原因と思われる。電気使用量削減の為に活動はきちんと実施されている。
	▶ ガス使用量の維持	○	目標を達成する事が出来た。ガスの使用量には、ばらつきがあり、特にシャワーの使用頻度が大きく影響する。シャワーの使用は社員本人の判断に任せており、そこに制限をかけることは考えていないが、結果的に今年度は使用量が抑えられていた。
	▶ 燃料使用量の削減	○	目標を達成する事ができた。燃料使用量は、業務量により大きく影響を受ける項目なので、「売上げが減ったから燃料使用量も減少した」ということになるのは望ましくない。しかし今期は、しっかり売上高が出ている状態での目標の達成となっているので、エコドライブなどの活動の成果が表れていると感じる。
②	廃棄物排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。定期的に保管書類を整理して処分する活動をしてきたが、それが一旦落ち着き、紙類の処分量が少なくなったことで廃棄物排出量が減少した。
③	水使用量の削減	×	5月～8月までの使用量が多く、目標値を達成する事ができなかった。使用量が増加したのははっきりとした原因は分からなかったものの、洗濯機の水を出っぱなしにしていた可能性があり、おそらくそれが原因だったのではないかと考えている。再発防止策を実施し、今後は同じ事が起きないように注意する。
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入されている。
⑤	グリーン活動への参加	○	目標を達成することができている。継続して取り組まれていた。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。

環境経営目標と評価 久留米支店

■ 環境経営目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R1年度実績		R2年度		R3年度		R4年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	287340.3	-0.5%	285903.6	-1.0%	284466.9	-1.5%	283030.2
	▶ 電気使用量の削減	kWh	20584.0	-0.5%	20481.1	-1.0%	20378.2	-1.5%	20275.2
	▶ ガス使用量の維持	m ³	3.2	±0%	3.2	±0%	3.2	—	32.8
	▶ 燃料使用量の削減	L	108286.0	-0.5%	107744.6	-1.0%	107203.1	-1.5%	106661.7
②	廃棄物排出量の削減	kg	550.1	-0.5%	547.4	-1.0%	544.6	-1.5%	541.9
③	水使用量の削減	m ³	176.0	-0.5%	175.1	-1.0%	174.2	—	461.0
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	110	±0人	110	±0人	110	±0人	110
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集 運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する 環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO₂ 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R3年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	287340.3	-1.0%	284466.9	272318.4	104.3%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	20584.0	-1.0%	20378.2	22548.0	89.4%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	3.2	±0%	3.2	32.8	-825.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	108286.0	-1.0%	107203.1	102175.0	104.7%
②	廃棄物排出量の削減	kg	550.1	-1.0%	544.6	705.8	70.4%
③	水使用量の削減	m ³	176.0	-1.0%	174.2	461.0	-64.6%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	110	±0人	110	78	70.9%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運 搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する 環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂ 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

環境経営目標と評価 久留米支店

■ 環境経営目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			R1年度		R4年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	287340.3	-1.5%	283030.2	261384.4	107.6%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	20584.0	-1.5%	20275.2	22406.0	89.5%
	▶ ガス使用量の維持	m ³	3.2	—	32.8	28.0	114.6%
	▶ 燃料使用量の削減	L	108286.0	-1.5%	106661.7	97959.0	108.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	550.1	-1.5%	541.9	633.2	83.2%
③	水使用量の削減	m ³	176.0	—	461.0	394.0	114.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	—	活動の実施	活動の実施	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	110	±0人	110	93	84.5%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO₂/kWh」を使用した。

※達成状況評価基準 ▶達成率 100%以上=○ ▶達成率 100%未満 70%以上=△ ▶達成率 70%未満×

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	目標を達成する事ができた。内訳としては、電気使用量の削減では目標を達成できなかったが、燃料使用量の削減とガス使用量の維持項目では目標を達成する事ができた。総じて、二酸化炭素排出量の削減目標が達成できた。
	▶ 電気使用量の削減	△	目標を達成する事はできなかった。前年度と比較しても電気使用量が多かった。現場社員が作業報告書などの作成で事務所内にいることが多かったり、残業時間が増加したりしたことが要因だと思われる。電気使用量削減の為に取り組みとして、11月に事務所2Fの照明をLEDに変更している。その効果もあり、11月以降には電気使用量の減少が確認できた。
	▶ ガス使用量の維持	○	少し余裕のある状態で目標を達成する事ができた。ガスの使用量は、給湯器やシャワーの使用頻度によって変動する。シャワーの使用頻度については、現場の状況によって年度毎にばらつきがあり、予想するのは難しいが、来年度の目標については、少し高くする事を検討する。
	▶ 燃料使用量の削減	○	目標を達成する事ができた。燃料使用量は業務量と比例する関係にあり、あまりにも減少すれば、それはそれで問題がある。しかし、今年度は売上高もしっかりと確保したうえで目標値を達成できているので、削減活動の成果が出ていると評価できる。
②	廃棄物排出量の削減	△	目標を達成する事ができなかった。今年度の結果を周知する事で、改めて活動への関心を高め、来年度には目標が達成される事を期待したい。
③	水使用量の削減	○	前年度の使用量の維持を目標としていた事もあり、目標を達成する事ができた。少し余裕のある状態で目標を達成しているため、前年度の使用量も参考にして、次年度にはより高い目標の設定を検討する。
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入をしている。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標を達成できなかった。業務との兼ね合いもあるので、忙しい時期には参加する事が難しくなる。結果を周知し、今以上に意欲的に取り組んでくれることを期待したい。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。

環境経営目標と評価（化学物質の管理表）

補足 化学物質の管理表

年度	種別	化学物質の種類または薬品名	単位	年間購入量
R4年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	30.0
		アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	350.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	0.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	0.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	0.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	100.0
		東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
		水処理剤 XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	975.0
		水処理剤 XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,875.0
		水処理剤 XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
グリソノ【グリソ除去剤】	kg	0.0		
R3年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	10.0
		アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	430.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	12.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	40.0
		東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
		水処理剤 XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
		水処理剤 XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	2,025.0
		水処理剤 XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
グリソノ【グリソ除去剤】	kg	40.0		
R2年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	40.0
		アロンフロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	540.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	12.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	20.0
		東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
		水処理剤 XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	975.0
		水処理剤 XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	2,025.0
		水処理剤 XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
グリソノ【グリソ除去剤】	kg	40.0		

化学物質購入量

環境経営目標と評価（目標設定の考え方）

■ 補足 環境経営目標の設定に関する考え方

下記の考え方を取りまとめ、これに従って環境目標を設定した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。ただし、燃料使用量が業績向上に伴って増加している場合には、二酸化炭素排出量にも大きく影響する。その場合は、電気使用量が削減できていれば評価に値すると考える。
	▶ 電気使用量の削減	kWh	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。削減の対策として、遮熱フィルムの貼付け、エアコンの取替え、蛍光灯の LED 化なども合わせて検討する。
	▶ ガス使用量の維持	m ³	前年度に久留米支店で職場環境改善の為、ガス給湯器を増設している。基本的な使用量が大幅に変化している為、今年度の目標値は前年度の使用量の維持とし、使用量の把握を行う。
	▶ 燃料使用量の削減	L	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。主にエコドライブの実施。低燃費車の導入や、過積載防止という取り組みも燃料使用量の削減に影響するが、それについては以下の項目⑦及び⑧の目標として取り組む。 ただし、業務の増減によって左右されるため、実績評価にあたっては、その年の業績と比べて評価しなければならない。業績が向上した年は、燃料使用量が増えて当然である。また、エンジンを利用して機械を稼働させる吸引車が殆どであり、走行距離と給油量から燃費を計算できるものではないため、燃費による評価は採用しない。
②	廃棄物排出量の削減	kg	R1 年度時点の実績から毎年 0.5%の削減を目指す。さらに、令和 4 年度までの 3 年間で合計 1.5%の削減を最終目標とする。
③	水使用量の削減	m ³	久留米支店で、職場環境改善の為の設備投資による基本的な使用量の増加と、本社で目標値の見直しを行っている。今年度の目標値は前年度の使用量の維持とし、その数値を材料として次年度以降の目標値を検討する。
④	グリーン購入の推進	品目数	数値目標は設定せず、優先的に購入する事を推進する。現場資材については品質、性能を優先するため、こちらから指示することはできない。基本的に、事務用品及び福利厚生品を対象として取り組む。
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	R1 年度時点で大部分の従業員が活動に参加している。今以上に参加人数を増やす事は難しい為、現状の維持を目指す。
⑥	化学物質の適正管理	—	適正管理の実施を目標とする。適正管理の意味するところは、「①購入量を記録する」「②化学薬品を購入した場合は MSDS を取得する」「③購入量と MSDS 情報から、PRTR 法に該当する有害物質の量を記録する」ということ。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	収集運搬においては、過積載の防止を目標とし、毎年5月と11月を過積載防止月間と設定して取り組みの状況を確認する。 処分(中間処理)においては、脱水後の汚泥を再資源化(堆肥化、発酵)の処分場へ搬入することを目標とする。この結果については、「環境への負荷の状況」に記載する量で確認できる。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	建設業と言っても、建築、解体、大規模な工事等を行っているわけではない。施工時に環境への配慮として実施すべき項目を設定し、それが取り組まれているかどうかで評価する。

環境経営計画の取組結果とその評価 本社

本 社

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	昼休み中は消灯する。	○	確実に実施されていた。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	意識して実施する事ができている。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	大寒波の日には、設定温度が高くなっている日もあったが、無理のない範囲で設定温度の調整をしていた。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月の大掃除の日に実施している。
	▶ガス使用量の維持 (R1年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	閉め忘れのないよう意識できていた。
	▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	エコドライブを実施する。	○	実施されている。全員で意識して取り組む事ができている。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	乗車前確認の徹底を目標として、全員で共有している。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前にルートを確認する事で、最短距離を走行できるようにしている。
②	廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	確実に記録されている。ゴミを出す前に計測するようにしている。
		2	分別を徹底する。	○	出来ている。判断が難しい物については、ネット検索等で調べて分別するようにしている。
③	水使用量の削減 (R3年度実績を維持)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	実施されている。意識して節水に取り組む事ができている。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	確実に実施することが出来ている。
④	グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先的に購入出来ている。
⑤	グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	49	当番表を作成する事で、計画的に実施する事ができた。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	2	近隣で開催された清掃活動に参加しました。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	—	該当しない部署
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車で作業時は、適切な回転数で稼働させる。	—	該当しない部署
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	—	該当しない部署
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	—	該当しない部署

環境経営計画の取組結果とその評価 大牟田支店

大牟田支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	昼休み中は消灯する。	○	出来ています。継続して下さい。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	習慣化されています。今後も継続して下さい。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	出来ています。温度管理の継続をお願いします。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	11月と12月に実施しました。
	▶ガス使用量の維持 (R1年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	実施されています。継続して下さい。
	▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	エコドライブを実施する。	○	意識してエコドライブを実施出来ています。今後も継続して下さい。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	始業前の確認が習慣化されています。継続して下さい。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に最短距離になるよう計画して業務を行うようにしています。
②	廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	実施出来ています。今後も忘れがないよう確実にお願いします。
		2	分別を徹底する。	○	出来ています。継続して下さい。
③	水使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	実施出来ています。意識して取り組まれています。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	漏れもなく確認出来ています。今後も継続して下さい。
④	グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	実施出来ています。今後も継続して下さい。
⑤	グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	333	参加人数が少ない日がありました。参加人数を増やせるよう出来る限りの業務調整をお願いします。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	3	近隣の地域で開催された環境イベントに参加しました。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	○	出来ています。継続して下さい。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	意識して取り組んでいます。今後も徹底してください。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	全量、再資源化を行う処分場に委託しています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	実施出来ています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	実施出来ています。継続して下さい。

環境経営計画の取組結果とその評価 熊本支店

熊本支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	昼休み中は消灯する。	○	実施されている。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	必ず実施されている。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	適正な設定温度に調整されていた。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月に清掃を実施している。
	▶ガス使用量の維持 (R1年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	確実に実施されている。
	▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	エコドライブを実施する。	○	エコドライブを意識して、尚且つ、周りの状況に配慮した運転が出来ていた。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	規定量になっている事が確認されていた。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に渋滞情報を確認し、計画していた。
②	廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	忘れもなく、欠かさず記録している。
		2	分別を徹底する。	○	きちんと分別されていた。
③	水使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	節水活動への取り組みが意欲的に実施されていた。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	実施している。漏水等の発生は確認されていない。
④	グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先して購入している。
⑤	グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	66	業務の忙しい中でも時間を作り実施されている。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	0	新型コロナウイルス流行の影響で自粛期間が続いており、参加できる環境イベントを見つけることができなかった。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した製品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	事前に比重を計算するなど、工夫をして防止されている。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	必ず再資源化を行う処分場に委託している。12月には現地視察も行った。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	適切な回転数を意識して稼働できている。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	作業前のミーティングで意見を出し合い、計画を立て、最短工事になるよう努力した。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	作業後に周辺の確認を行い、周辺環境を汚染しないよう対策をしていた。












環境経営計画の取組結果とその評価 久留米支店

久留米支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	昼休み中は消灯する。	△	出来ていますが、たまに消し忘れがあります。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	確実に実施されています。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	設定温度を調整出来ていました。無理のない範囲で続けてください。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月に実施しました。
	▶ガス使用量の維持 (R3年度実績を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	閉め忘れはありませんでした。
	▶燃料使用量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	エコドライブを実施する。	△	意識して取り組まれています。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	意識して必ず確認するようにしてください。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に計画し、実施されています。
②	廃棄物排出量の削減 (R1年度実績より1.5%削減)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	確実に記録されていました。
		2	分別を徹底する。	△	分別の間違いがありました。分からない物は調べるようにしてください。
③	水使用量の削減 (R3年度実績を維持)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	意識して節水に取り組んでいました。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	必ず検針票を確認する事ができています。
④	グリーン購入の推進 (優先的に購入)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	可能な限り購入されていました。
⑤	グリーン活動への参加 (R1年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	83	参加人数は少ないですが、忙しい中でも実施されていました。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	10	10月に近隣の環境イベントに参加しました。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	重要項目と捉え、重点的に取り組んでいます。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	全て再資源化を行う処分場へ委託しています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	出来ています。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	計画的に施工できています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	意識して施工できていました。

当社の環境経営目標とSDGsの関わり

・SDGsに関する当社の環境経営目標一覧表

No.	項目	実施内容	関係するSDGs17の目標のアイコン
①	二酸化炭素排出量の削減	昼休み中は消灯する。	 
		人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	
		エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	
		エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	
▶	電気使用量の削減	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	
		エアコンの使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	
▶	ガス使用量の維持	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	
▶	燃料使用量の削減	エコドライブを実施する。	
		始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	
		運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	
②	廃棄物排出量の削減	ゴミの排出重量をかみならず記録する。	 
		分別を徹底する。	
③	水使用量の削減	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	
		水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	
④	グリーン購入の推進	製品購入にあたっては、可能な限りグリーン製品を購入する。	
⑤	グリーン活動への参加	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	
		行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	
⑥	化学物質の適正管理	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	 
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	(収集運搬)過積載を防止する。	
		(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	
		最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	
		周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	

実施した取組内容、次年度の目標及び計画

■ 環境経営計画に基づき実施した取組内容（一部）

- 営業車は、基本的にプリウスやアクアなどのハイブリッド車か低燃費車を購入している。
- 社内のプリンタ複合機は、省電力（スリープ）モード付きで、人感センサーで起動するタイプのものを購入している。（富士ゼロックス製）
- 事務所内の蛍光灯を、LED 照明へ変更している。
- 夏はクールビズ、冬はウォームビズを推奨している。
- 作業員の制服は、夏服も冬服もグリーン製品を使用している。
- 室温管理のために、室温計を設置している。
- 重要書類の処分は、クロネコヤマトの「機密文書リサイクルサービス（溶解処分）」を利用している。

■ 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

令和 1 年度の実績値を規定値として、令和 2 年度から令和 4 年度までの 3 カ年で環境経営目標及び環境経営計画を作成していた。今年度が 3 カ年計画の最後の年となる為、次年度には下記の中期目標計画を設定し、活動に取り組む。

中期目標計画（R5年度～R7年度）

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	増減値	目標値	増減値	到達目標値
			R4年度実績		R5年度		R6年度		R7年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	598906.4	±0%	598906.4	±0%	598906.4	±0%	598906.4
	▶ 電気使用量の削減	kWh	95513.0	±0%	95513.0	±0%	95513.0	±0%	95513.0
	▶ ガス使用量の維持	m ³	87.7	±0%	87.7	±0%	87.7	±0%	87.7
	▶ 燃料使用量の削減	L	215382.3	±0%	215382.3	±0%	215382.3	±0%	215382.3
②	廃棄物排出量の削減	kg	7446.4	±0%	7446.4	±0%	7446.4	±0%	7446.4
③	水使用量の削減	m ³	1208.0	±0%	1208.0	±0%	1208.0	±0%	1208.0
④	グリーン購入の推進	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	546	±0人	546	±0人	546	±0人	546
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施	—	活動の実施

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2022年調整後排出係数「0.453kg-CO₂/ kWh」を使用した。

環境負荷実績 全体

全体

1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比
売上高	千円	1,083,831	1,189,107	1,117,555	94.0%
従業員	人	73	74	74	100.0%
床面積	m ²	1231.77	1231.77	1231.77	100.0%

2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	639819.0	630176.5	588782.0	93%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	4393.4	3104.5	2890.2	93%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	11.6	5.5	15.2	278%			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	1417.9	1326.9	580.0	44%			○	
	▶ うち資源化等量	t	1417.9	1326.9	580.0	44%			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	208.6	192.4	97.3	51%			○	
	▶ うち資源化等量	t	208.6	192.4	97.3	51%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	9389.9	8940.5	8420.8	94%			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	2159.8	1946.8	1867.8	96%			○
		単純焼却	kg	1404.8	1563.9	1006.9	64%			○
		最終処分	kg	12.9	12.5	21.8	174%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	4540.0	4550.0	4550.0	100%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計	kg	8117.4	8073.2	7446.4	92%	○			
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	235.0	247.0	267.0	108%			○	
	下水道	m ³	613.9	970.5	941.0	97%			○	
	排水量合計	m ³	848.9	1217.5	1208.0	99%	○			
	BOD排出量	g	1786.0	1877.2	2937.0	156%			○	
④-2 水使用量	上水	m ³	848.9	1217.5	1208.0	99%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	976089.5	953382.2	938892.8	98%	○			
	化石燃料	軽油	MJ	7618938.8	7500761.8	6940562.2	93%			○
		ガソリン	MJ	1183068.1	1157947.5	1142737.3	99%	○		
		灯油	MJ	23744.9	35628.7	24408.4	69%	○		
		プロパンガス	MJ	16028.1	18681.3	7989.3	43%	○		
		都市ガス	MJ	0.0	0.0	315.0	—			○
	新エネルギー	—	0.0	0.0	0.0	—			○	
その他	—	0.0	0.0	0.0	—			○		
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	757.0	738.5	1023.5	139%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—		
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	1030.0	1100.0	1060.0	96%			○	
	▶ うち資源化	t	1030.0	1100.0	1060.0	96%			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績

② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		54.6	68.9	56.6	
	汚泥		3763.1	2601.7	2249.0	
	廃油		1.2	4.7	0.7	
	廃酸		0.0	0.6	0.0	
	廃アルカリ		1.8	73.6	314.0	
	廃プラスチック類		3.3	3.7	5.0	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		8.8	8.8	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		540.2	301.2	235.0	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		4.9	4.9	19.5	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		0.0	0.1	6.8	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	0.0	
	がれき類		0.0	0.0	3.5	
	ばいじん		15.4	36.3	0.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
				0.0	0.0	0.0
	収集運搬量 合計			4393.4	3104.5	2890.2
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.0	
	特管廃酸		0.0	0.0	5.0	
	特管廃アルカリ		0.0	1.5	0.6	
	特管燃え殻		7.8	4.0	9.0	
	特管汚泥		3.8	0.0	0.6	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
				0.0	0.0	0.0
収集運搬量 合計			11.6	5.5	15.2	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	1417.9	1326.9	580.0
		有機性汚泥	脱水	1417.9	1326.9	580.0
		再資源化等量 小計		1417.9	1326.9	580.0
中間処理量 合計			1417.9	1326.9	580.0	
中間処理後の 産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
				0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	208.6	192.4	97.3
				0.0	0.0	0.0
中間処理後処分量 合計			208.6	192.4	97.3	

浄化槽清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年
				処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		9389.9	8940.5	8420.8

環境負荷実績 本社

本 社

1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比
売上高	千円	16,607	8,430	6,636	78.7%
従業員	人	10	10	10	100%
床面積	m ²	118.44	118.44	118.44	100%

2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	21951.8	18593.2	16007.4	86%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化等量	t	—	—	—	—			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化等量	t	—	—	—	—		○		
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	1058.5	882.4	793.7	90%			○
		単純焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	12.9	12.5	21.8	174%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		廃棄物排出量合計	kg	1071.4	894.9	815.5	91%	○		
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	0.0	0.0	0.0	—			○	
	下水道	m ³	-36.1	52.5	42.0	80%			○	
	排水量合計	m ³	-36.1	52.5	42.0	80%	○			
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○	
④-2 水使用量	上水	m ³	-36.1	52.5	42.0	80%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	359453.6	324586.6	290397.9	89%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	0.0	0.0	0.0	—			○
		ガソリン	MJ	138048.1	106337.9	85548.5	80%	○		
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
		都市ガス	MJ	0.0	0.0	315.0	—	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	236.5	200.0	402.5	201%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものはありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化	t	—	—	—	—			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

<産業廃棄物処理量について>

本社は産業廃棄物収集運搬及び処分を行う部署ではない為

実績はありません

環境負荷実績 大牟田支店

大牟田支店

1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比
売上高	千円	370,678	326,449	329,830	101.0%
従業員	人	31	31	31	100%
床面積	m ²	429.94	429.94	429.94	100%

2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	133655.4	136689.8	133879.9	98%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	615.4	58.8	111.9	190%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	0.0	0.0	0.0	—			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	443.3	149.6	0.0	0%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	443.3	149.6	0.0	0%			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	78.1	26.4	0.0	0%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	78.1	26.4	0.0	0%	○			
	浄化槽汚泥(一塵)の収集運搬量	t	9389.9	8940.5	8420.8	94%			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	1024.0	982.6	1021.2	104%			○
		単純焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	4540.0	4550.0	4550.0	100%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		廃棄物排出量合計	kg	5564.0	5532.6	5571.2	101%	○		
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	235.0	247.0	267.0	108%			○	
	下水道	m ³	0.0	0.0	0.0	—			○	
	排水量合計	m ³	235.0	247.0	267.0	108%	○			
	BOD排出量	g	1786.0	1877.2	2937.0	156%			○	
④-2 水使用量	上水	m ³	235.0	247.0	267.0	108%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	230896.9	218167.0	234917.3	108%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	1445391.7	1508866.8	1462517.9	97%			○
		ガソリン	MJ	390556.5	377486.0	374251.6	99%	○		
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
		プロパンガス	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	178.5	172.5	170.0	99%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	—	—	—	—			○	
	▶ うち再資源化	t	—	—	—	—			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績 大牟田支店

② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		7.5	0.0	0.0	
	汚泥		607.0	58.0	111.6	
	廃油		0.9	0.8	0.3	
	廃酸		0.0	0.0	0.0	
	廃アルカリ		0.0	0.0	0.0	
	廃プラスチック類		0.0	0.0	0.0	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	0.0	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		0.0	0.0	0.0	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.0	0.0	0.0	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		0.0	0.0	0.0	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	0.0	
	がれき類		0.0	0.0	0.0	
	ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			615.4	58.8	111.9
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.0	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	0.0	
	特管燃え殻		0.0	0.0	0.0	
	特管汚泥		0.0	0.0	0.0	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
収集運搬量 合計			0.0	0.0	0.0	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	443.3	149.6	0.0
		有機性汚泥	脱水	443.3	149.6	0.0
		再資源化等量 小計		443.3	149.6	0.0
中間処理量 合計			443.3	149.6	0.0	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	78.1	26.4	0.0
中間処理後処分量 合計			78.1	26.4	0.0	

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		9389.9	8940.5	8420.8

環境負荷実績 熊本支店

熊本支店

1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比
売上高	千円	355,419	434,098	388,477	89.5%
従業員	人	15	17	17	100%
床面積	m ²	172.25	172.25	172.25	100%

2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	225414.0	202575.1	177510.3	88%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	1987.9	981.3	716.0	73%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	11.6	5.5	14.0	256%			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	621.5	858.3	580.0	68%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	621.5	858.3	580.0	68%			○	
	中間処理後の産廃の処分量	t	78.8	119.7	97.3	81%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	78.8	119.7	97.3	81%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	77.3	81.9	52.9	65%			○
		単純焼却	kg	764.7	858.1	373.7	44%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	廃棄物排出量合計	kg	842.0	940.0	426.6	45%	○			
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	0.0	0.0	0.0	—			○	
	下水道	m ³	427.0	457.0	505.0	111%			○	
	排水量合計	m ³	427.0	457.0	505.0	111%	○			
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○	
④-2 水使用量	上水	m ³	427.0	457.0	505.0	111%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	—	—	—	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	172811.4	188981.8	193326.6	102%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	2927463.9	2588886.2	2206231.1	85%			○
		ガソリン	MJ	247048.5	246190.8	276168.2	112%	○		
		灯油	MJ	10276.0	9094.6	4110.4	45%	○		
		プロパンガス	MJ	15632.1	15434.1	5217.3	34%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	210.0	211.0	311.0	147%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	610.0	650.0	630.0	97%			○	
	▶ うち再資源化	t	610.0	650.0	630.0	97%			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績 熊本支店

② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		32.5	34.8	37.1	
	汚泥		1643.4	860.5	656.7	
	廃油		0.0	0.8	0.0	
	廃酸		0.0	0.0	0.0	
	廃アルカリ		1.8	2.0	0.6	
	廃プラスチック類		0.5	0.0	0.3	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	0.0	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		309.3	83.2	21.2	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.4	0.0	0.01	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		0.0	0.0	0.1	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	0.0	
	がれき類		0.0	0.0	0.0	
	ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			1987.9	981.3	716.0
	収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.0
特管廃酸			0.0	0.0	5.0	
特管廃アルカリ			0.0	1.5	0.0	
特管燃え殻			7.8	4.0	9.0	
特管汚泥			3.8	0.0	0.0	
特管鉱さい			0.0	0.0	0.0	
特管ばいじん			0.0	0.0	0.0	
特管はい石綿等			0.0	0.0	0.0	
収集運搬量 合計			11.6	5.5	14.0	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	621.5	858.3	580.0
		有機性汚泥	脱水	621.5	858.3	580.0
		再資源化等量 小計		621.5	858.3	580.0
中間処理量 合計			621.5	858.3	580.0	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	78.8	119.7	97.3
中間処理後処分量 合計			78.8	119.7	97.3	

浄化槽清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年
				処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		—	—	—

環境負荷実績 久留米支店

久留米支店

1. 事業の規模

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比
売上高	千円	341,127	420,127	392,611	93%
従業員	人	17	17	17	100%
床面積	m ²	511.14	511.14	511.14	100%

2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)

環境への負荷	単位	R2年	R3年	R4年	前年度比	重要性				
						目標項目	取組項目	監視項目		
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	258797.7	272318.4	261384.4	96%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	1790.1	2064.5	2062.3	100%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	0.0	0.0	1.2	—			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	353.1	319.0	0.0	0%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	353.1	319.0	0.0	0%			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	51.7	46.2	0.0	0%			○	
	▶ うち再資源化等量	t	51.7	46.2	0.0	0%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		単純焼却	kg	640.1	705.8	633.2	90%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		廃棄物排出量合計	kg	640.1	705.8	633.2	90%	○		
④-1 総排水量	公共用水域	m ³	0.0	0.0	0.0	—			○	
	下水道	m ³	223.0	461.0	394.0	85%			○	
	排水量合計	m ³	223.0	461.0	394.0	85%	○			
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○	
④-2 水使用量	上水	m ³	223.0	461.0	394.0	85%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	—	—	—	—		○		
		kg	—	—	—	—		○		
		kg	—	—	—	—		○		
		kg	—	—	—	—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	212927.6	221646.8	220251.0	99%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	3246083.2	3403008.8	3271813.2	96%			○
		ガソリン	MJ	407415.0	427932.8	406769.0	95%	○		
		灯油	MJ	13468.9	26534.1	20298.0	76%	○		
		プロパンガス	MJ	396.0	3247.2	2772.0	85%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○	
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	132.0	155.0	140.0	90%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	420.0	450.0	430.0	96%			○	
	▶ うち再資源化	t	420.0	450.0	430.0	96%			○	

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

環境負荷実績 久留米支店

② 受託した産業廃棄物の処理量

処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
産業廃棄物の処理量	収集運搬	燃え殻	14.7	34.1	19.5	
		汚泥	1512.7	1683.2	1480.7	
		廃油	0.3	3.2	0.5	
		廃酸	0.0	0.6	0.0	
		廃アルカリ	0.0	71.6	313.4	
		廃プラスチック類	2.8	3.6	4.7	
		紙くず	0.0	0.0	0.0	
		木くず	8.8	8.8	0.0	
		繊維くず	0.0	0.0	0.0	
		動・植物性残さ	230.9	218.1	213.8	
		ゴムくず	0.0	0.0	0.0	
		金属くず	4.5	4.9	19.5	
		ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず	0.0	0.1	6.7	
		鋳さい	0.0	0.0	0.0	
		動物のふん尿	0.0	0.0	0.0	
		がれき類	0.0	0.0	3.5	
		ばいじん	15.4	36.3	0.0	
		石綿含有産業廃棄物	0.0	0.0	0.0	
		収集運搬量 合計			1790.1	2064.5
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.0	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	0.6	
	特管燃え殻		0.0	0.0	0.0	
	特管汚泥		0.0	0.0	0.6	
	特管鋳さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			0.0	0.0	1.2
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	353.1	319.0	0.0
		有機性汚泥	脱水	353.1	319.0	0.0
		再資源化等量 小計		353.1	319.0	0.0
中間処理量 合計			353.1	319.0	0.0	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	51.7	46.2	0.0
中間処理後処分量 合計			51.7	46.2	0.0	

浄化槽清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	R2年	R3年	R4年
				処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		—	—	—

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■ 確認を実施した環境関連法規

法令	対象施設・業種	確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物収集運搬業	✓
	一般廃棄物の処理	✓
	産業廃棄物の処理	✓
	特別管理産業廃棄物の処理	✓
	産業廃棄物管理票	✓
	雑則	✓
	産業廃棄物処理業 (収集運搬、処分)	✓
	特別管理産業廃棄物処理業 (収集運搬)	✓
	産業廃棄物処理施設	✓
福岡県廃棄物の処理及び清掃に関する法律 施行細則 (条例)	実績報告書の提出	✓
建設工事に係る資源の再資源化等に関する 法律	建設業	✓
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する 法律	作業車、営業車	✓
水質汚濁防止法	機械潤滑油の流出防止	✓
フロン排出抑制法	定格出力が 7.5kW 未満の業務用の エアコン等	✓
自動車リサイクル法	廃車時	✓
家電リサイクル法	家電の廃棄時	✓
小型家電リサイクル法	小型家電の廃棄時	✓
道路交通法	運搬車両、社用車	✓
浄化槽法 (大牟田市浄化槽法施行細則) (大牟田市浄化槽保守点検業者の登録に関 する条例)	浄化槽清掃業、保守点検業	✓
毒物及び劇物取締法	衛生設備の詰まり補修等	✓
上記に関する遵守チェック実施日	R4 年 12 月 30 日	

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■ 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

評価コメント
リストに記載した環境関連法規等について、書類の保管状況、遵守事項の実施状況、禁止事項の遵守状況等をチェックしました。 行政指導は受けておりません。

■ 環境関連法規等の内容が最新の状態であるかの確認

最新の状態であるかの確認実施日	情報更新・追加等の有無
H24年12月10日	無し
H25年12月27日	有り
H27年9月19日	無し
H28年10月15日	有り
H29年10月6日	有り
H30年10月9日	有り
R1年10月7日	無し
R2年10月8日	無し
R3年10月7日	無し
R4年10月7日	無し

代表者による全体評価と見直しの結果

■ 全体評価

● 環境への取り組みは適切に実施されているか

環境への取り組みが適切に実施されています。今年度の結果としては、目標を達成できている項目が多く、日頃の取り組みの成果が結果に表れていると感じます。ただ、目標を達成できていない項目もあります。特に水使用量については、一部の支店で大きく増加しています。原因の調査と再発防止の取り組みは実施されていますので、減らすことができない用途と削減努力ができる用途を区別して考えながら、活動の継続と目標の設定をしてください。ただ、このように結果と対応が整理できているということは、PDCAのサイクルがきちんと回っているということでもあります。つまり、それも含めてエコアクションの活動ができていると感じています。

グリーン活動（事務所近隣の自主的清掃活動）への参加については、業務との兼ね合いもあり、人数を確保することが難しい場合もあると思います。部署毎の勤務体制にあわせて、無理のない目標設定をしてください。重要なのはエコ活動を継続することであり、かならずしも目標レベルを高めていくことだけが取り組みの意義ではないはずです。また、環境イベントへの参加については、基本的には休日の自主参加になる活動であるため、人数を目標にしてしまうと、強要されていると感じる人もいるかもしれません。環境イベントへの参加は人数目標から切り離して、違う形の目標設定にすることを検討してみてください。

● 環境経営システムが有効に機能しているか

環境経営システムは有効に機能しています。環境経営目標を達成する為に作成された環境経営計画があり、それに基づいた活動が実施されています。その結果と評価についても、担当者から報告を受けて確認をしました。活動を続けていく事で、環境経営計画に沿った行動が、社員全員に習慣として身につけていると感じています。今後も社員一人一人が決められた役割に責任を持ち、今よりもさらにより良い活動に成長させられるよう努力を続けていきたいと思います。

■ 見直すべき点

● 環境経営方針

変更の必要性：無し

● 環境経営目標・環境経営計画

変更の必要性：有り

今年度は三カ年の中期目標計画の最後の年でした。来年度からは、新たな環境経営目標と環境経営計画を策定して運用を開始してください。

● その他の環境経営システムの要素

変更の必要性：無し

- 環境負荷、取組の自己チェック
- 環境関連法規等の取りまとめ
- 実施体制
- 教育訓練
- 環境コミュニケーション
- 実施及び運用
- 緊急事態への準備と評価
- 問題点の是正処置
- 文書及び記録の作成整理

代表取締役 久留須 智子

共栄環境開発株式会社
令和4年度 環境経営レポート